

1 背景と現状

- 「特定健診・特定保健指導情報データを活用した分析・評価（令和4年度分）」によると、刈谷市の高血糖保有者（保健指導対象者、受診勧奨者、治療者）の割合は、**愛知県と比較して有意に多い**ことが明らかになっている（高血糖 保健指導対象者の標準化該当比：108.7）。現代医学において、糖尿病の完治は困難であるため、高血糖の人の増加が続くことで、**将来的に糖尿病患者の増加、延いては人工透析などの高額な医療を必要とする人や障害者手帳取得者の増加が生じ、医療費等が財源を圧迫**することが予測される。
- 糖尿病性腎症重症化予防として、刈谷市国民健康保険被保険者のうち、HbA1cが高値である方を対象とした、1クール6回・定員15名の教室を実施している。保健師・管理栄養士・運動指導員などの専門職種が教室を運営している。

2 解決したい課題

- 教室の参加者は、対象者の約1割と非常に少なく、60歳後半～70歳前半が多いことから、**中年層（40歳～50歳）に向けた有用なアプローチが図られていない**。
- 行動変容に**無関心な方にとって、教室の参加はハードルが高く**、また、仕事などによる**時間的制約がある方は、教室の参加が困難**であり、気軽に取り組みやすい実施への改善が必要である。

3 実現したい未来

- 1年後：行動変容の動機付け及び結果に結びつく生活改善の実施につながり、**参加者の血糖値が改善**する。
- 2年後：参加による血糖値の改善をPRし、参加希望者が増加し、**多数の高血糖保有者にアプローチ**できる。
- 5年後：参加者データの分析によって、高血糖に関連する生活習慣の**地域特性を把握し、刈谷市民全体を対象とした、一次予防の取組展開及びまちづくり推進**を図る。

4 想定する解決策や技術

- 血糖管理ができるアプリや測定機器（取扱いのサポートを含む）
※比較的取扱いが簡易で、活用しやすいものが好適。
- 参加者の数値及び食生活や運動習慣等の生活行動のデータ集計・分析。

